

(別紙)

水稻の出穂状況（8月5日現在概況速報）について

- 8月5日現在、県全体で64%の水田で出穂したとみられる。
地帯別の出穂割合は、北上川上流61%、北上川下流66%、東部42%、北部56%である。
- 県全体の出穂始期（10%出穂）は、平年より3日早い7月31日頃と推定される。

表1 水稻の地帯別出穂状況（8月5日現在 各農業改良普及センター調べ）

地帯名	同時期					出穂時期（月/日）								
	出穂割合（%）					本年（月/日）			平年			平年差（日）		
	本年	H29	H28	H27	H26	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期
北上川上流	61	35	33	66	65	7/30	(8/4)		8/2	8/6	8/11	-3	(-2)	
北上川下流	66	41	41	90	78	7/31	(8/3)		8/2	8/6	8/10	-2	(-3)	
東部	42	20	54	76	60	8/2			8/3	8/7	8/11	-1		
北部	56	11	29	68	79	8/2	(8/5)		8/4	8/7	8/11	-2	(-2)	
県全体	64	37	39	83	75	7/31	(8/3)		8/3	8/6	8/10	-3	(-3)	

- 注) 1 平年値：平成20年～29年の10カ年平均値
2 出穂割合：市町村ごとの出穂している水田の割合。
3 出穂時期：市町村単位での判定。始期：10%出穂、盛期：50%出穂、終期：90%出穂
4 出穂割合が50%を超えていても、市町村ごとに到達していない場合は確定できないため、カッコつきの推定値として記載している。

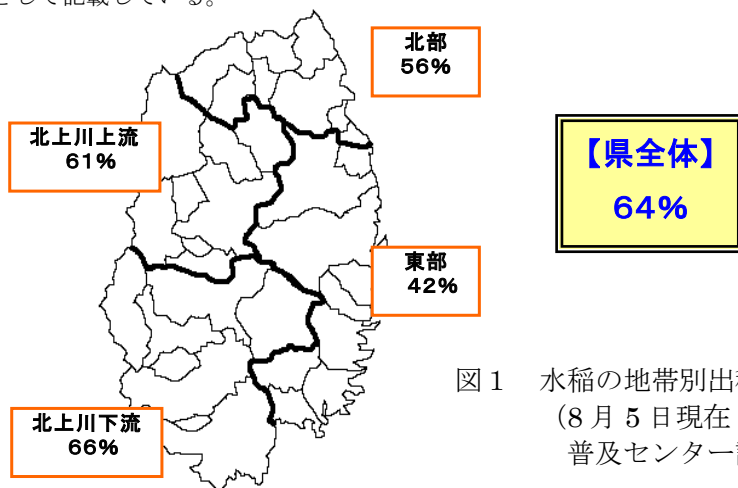


図1 水稻の地帯別出穂割合
（8月5日現在 各農業改良普及センター調べ）

3 栽培管理のポイント

- 出穂・開花期間は最も水が必要な時期なので、田面が露出しないよう湛水状態で管理する。開花終了後は間断灌がいの基本とする。
- 東北地方の1か月予報（仙台管区气象台，8月2日発表）によると、向こう1か月の平均気温は、高い確率が50%と予想されている。
気温が高い日が続く場合（概ね日中30℃以上、夜間23℃以上）、高温による玄米品質の低下を回避するため、積極的な水の入替えにより地温の低下を図る（特に夜温の低下に努める）。
用水の状況から可能な場合、掛け流しを行うことも有効である。
- 早期落水は、収量や品質低下の原因となるので避け、出穂後30～35日経過してから完全落水とする。
- 斑点米の原因となるカスミカメムシ類の発生量は「並」の予想である。水稻の生育に合わせ、穂揃1週間後の薬剤防除を実施すること。
- 穂いもち病は基本防除を徹底するとともに、必要に応じて追加防除を実施すること。